

# 共同処理「覚書」提出へ

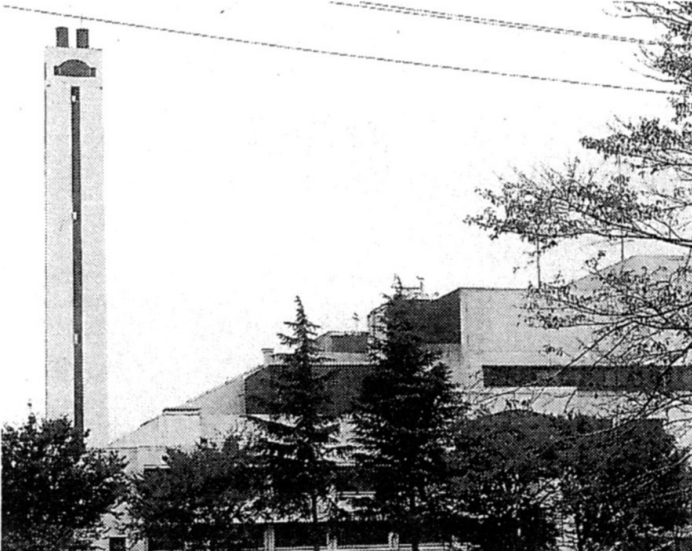
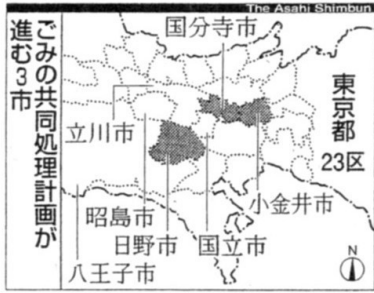
## 日野・小金井・国分寺の3市、19年度稼働へ動き

国に来月1日

日野市、小金井市、国分寺市の可燃ごみの共同処理計画をめぐり、3市が3月1日、3市長の署名が入った「覚書」を添付した計画書を環境省に提出する意向がわかった。これにより、2019年度の稼働に向けた手続きが実質的に動き出す。

覚書は、住民の合意を得ながら、3市が責任をもって共同処理を進めること、3市がともにごみ減量を進めていくこと、などの基本的な事項を誓約する内容になっている。3月1日に、日野、小金井、国分寺の3市長が共同署名し、環境省に提出する見込みだ。

覚書の締結を急いだ背景



日野市の可燃ごみを焼却している日野市クリーンセンター。敷地内に新施設が建設される＝日野市石田1丁目

覚書は、住民の合意を得ながら、3市が責任をもって共同処理を進めること、3市がともにごみ減量を進めていくこと、などの基本的な事項を誓約する内容になっている。3月1日に、日野、小金井、国分寺の3市長が共同署名し、環境省に提出する見込みだ。

環境省に計画書を提出する最終期限が迫っていたことがある。計画書には、新処理施設の規模や内容、効率的に発電する先進的施設であることを示すとともに、共同処理の基本的な合意事項についての3市の覚書を添付する必要がある。

このため、日野市では、

昨年12月に近隣住民への説明を始め、小規模な集会や戸別訪問を繰り返してきた。この結果、「計画に反対している人は、思ったよりは少なく、当初の方針通り広域化を進めていくべきだ」と判断した。

最終的には、23、24の両日に近隣自治会に対して市幹部が理解を求めた上で、3月1日に計画書を提出する予定だ。

一連の動きを受け、これまで「日野市の状況を見守る」としてきた小金井、国分寺の両市も、議会への報告などを進めていく見込みだ。両市の間には、04年から共同処理を約束しながら、建設地が決まらずに暗礁に乗り上げてきた経緯があり、3月上旬に両市の関係解消を予定している。無事に計画書を提出でき



れば、今後は19年度の共同処理の開始に向けて、環境アセスメントの作成や施設の基本設計など実質的な動きが始まる。一方、近隣住民の反発はなお根深く、当事者の日野市は4月に市長選を控えている。3市がどのように住民の理解を得ていくのかが今後のカギを握りそうだ。(市川美亜子、三嶋伸一、津田六平)

(平成25年2月23日 朝日新聞朝刊)

## 小金井市議 遠藤 ゆりこ と自民党は

### 近隣との信頼を築き、ごみの共同処理を実現します!

小金井市の可燃ごみ処理について、広域支援をお願いしている施設周辺にお住まいの皆様、並びに関係者の皆様に、心から感謝を申し上げます。同時に廃棄物の最終処分に関し、多大なご協力をいただいている日の出町の皆様、並びに関係者の皆様に重ねて感謝申し上げます。

#### 稲葉市長の選挙公約は

「本年度中に実現可能な処理方針を示す」

でした。私たちはこの新聞報道にあるような方向性の実現に向け、今後も安定したごみ処理の実現に向けて、行政と一致団結しつつ近隣市との信頼関係を構築し、ごみの共同処理の実現を目指してまいります。